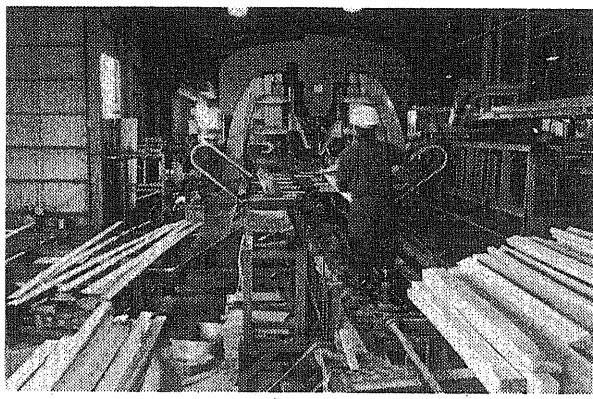


# 梱包材で一貫生産体制

建設・エネルギー・生活・流通・サービス

## 高橋木箱 日高木材工場(北海道)稼働 原木から造材しコスト減

高橋木箱製作所(東京都葛飾区、嶋田貫一社長、03・3692・5111)は、北海道で自社保有の山林や地元業者から原木を調達し、精密機械などの梱包用部材やパネルを生産する。製材工場の日高木材工場(日高町)を稼働した。原木から必要に応じたサイズに造材して端材の発生などを減らしコストダウンを図る。円安基調や国内需給の縮小が響き、木材価格が上昇していることを受け、梱包材などの一貫生産体制を構築して競争力を高める。



稼働した日高木材工場

高橋木箱製作所が製材工場を設置するのは初めて。原木を切断する造材は建築向けに対応したサイズ、長さに加工するのが一般的。必要なサイズの異なる梱包材を生産して発生する端材は、低付加価値の燃料用チップとして売却したり、産業廃棄物として有償処理したりするため、コストアップ

プの要因となっている。このため、原木の自社の要因となっている。調達と製材所の設置により、自社に最適なサイズの原材料を確保する。部材生産までの一貫体制を整えて無駄をなくす。製材工場の敷地面積は約4万2400平方メートル。生産した部材やパネルは、全国各地の事業所に輸送する。事業所ごとに求められる梱包材のサイズ、仕様については自社の情報システムで把握し、製材工場の生産に迅速に反映する。嶋田社長は「自社の原料比率を高める」としている。